

◇令和 8 年度事業計画（案）

大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会（以下「協議会」という。）は東日本大震災、令和 7 年大船渡市大規模林野火災の経験や教訓の伝承及び防災学習の推進に向けて、関係機関・団体等と連携しながら、防災学習ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）に関する津波伝承施設等の紹介や津波伝承・防災学習の取組などについて、市内外に向けて情報発信を行うとともに、関連する事業やイベント等を相互に支援する。

（以下の R 8 取組概要のうち、新たな取組について下線表記している。）

（各取組の末尾に実施主体を記載している。略称は以下のとおり。観光物産協会：観、キャッセン大船渡：キ、博物館：博、消防署：消、赤崎地区まちづくり委員会：赤、複数の実施主体が共通で実施：共）

事業	取組項目	R 8 取組概要	R 7 取組実績	対 象	実施時期	実施主体	予算規模															
防災学習ネットワークに関する情報発信	パンフレットの活用	(1) パンフレットの配架（共） ・市内の震災伝承施設や市外の東日本大震災伝承館、岩手県立図書館などにパンフレットを配架し、継続的に周知を図る。 【主な配架場所】 ネットワーク構成施設、道の駅さんりく、三陸鉄道盛駅、碓石インフォメーションセンター、東日本大震災津波伝承館、いのちをつなぐ未来館、岩手県立図書館 ・市内観光イベントや首都圏イベントにおいて、パンフレットを配布し、震災伝承施設等を紹介する機会を設ける。 (2) DM の送付（市） 当市の防災学習・震災伝承施設を紹介する DM を県内高校等に送付し、広く周知を図る。DM の内容は、令和 7 年度に作成した防災学習館利活用資料（あの日割引サービス等の情報を更新したもの）とあの日パンフレットを同封する。また、施設利用等のアンケートを併せて行い、施設の関心度・認知度や利用意向を把握する。	(1) 市内外各所にパンフレットを配架し、継続的に周知を図った。 【主な配架場所】 ネットワーク構成施設、道の駅さんりく、三陸鉄道盛駅、碓石インフォメーションセンター、東日本大震災津波伝承館、いのちをつなぐ未来館、岩手県立図書館 ・東日本大震災津波伝承館へパンフレット 200 部を追加で配架した。 (2) DM の内容検討 キャッセン大船渡の「防災×観光アドベンチャーあの日」プログラムとの連携をメインに検討を行った。今後、プランや連携手法を確立したうえで、市内小中学校は訪問説明、県内小中学校へは DM の送付を行う等調整している。	・市民(児童・生徒含む) ・来訪者 ・県内学校 ・公的機関、市内事業者・団体等	・随時 パンフレット配架 ・イベント開催時 パンフレット配布	・市(危機防災対策課、関係課) ・市教育委員会 ・市観光物産協会 ・キャッセン大船渡	—															
	SNS 等による情報発信	(1) SNS 等での情報発信（共） 市公式ホームページ、SNS（X）、市広報紙を活用し、震災伝承施設の紹介やイベント告知などのほか、防災学習ネットワーク関連施設の写真や防災を身近に感じられる内容など、防災学習に関する事項について幅広く情報発信を行う。(月 2 ～ 4 回程度) SNS で発信した情報は、閲覧数などユーザーの反応を把握し、コンテンツの内容を工夫するなど、より効果的な情報発信に努める。	(1) SNS を活用し、防災学習館や防災学習アーカイブスの紹介、その他防災情報など、機を捉えて情報発信を行った。（別紙 1 参照） X では、大船渡らしい写真や投稿がいいね数が多い傾向である（広聴広報研修より）。防災に関する投稿では、炊き出し訓練、パーティーの展示、出前講座、追悼献花の投稿がいいね数が多く、令和 6 年度と比較すると、エンゲージメント率が高い投稿が増えた（平均値は前年度比 50%UP）。関心が高い投稿の傾向としては、防災を身近に感じられる内容（訓練や出前講座の様子など）や、詳細クリックにつながるような興味を惹く写真を複数枚掲載した投稿が挙げられる。 広報おおふなどでは、防災訓練の情報や非常持出し品、陸間の自動閉鎖など災害に備えるための情報を随時掲載し、市民周知を図った。	・市民 ・X 利用者	・随時 SNS 発信 市広報紙掲載	・市(危機防災対策課) ・市観光物産協会	—															
防災学習ネットワーク関連施設等の利用促進	防災学習館等の活用促進	(1) 市内小中学校への情報提供（市） 震災を経験していない児童・生徒の防災教育ツールとして、防災学習館の活用や出前講座の実施などについて、教育委員会と連携しながら、未訪問の小学校含め、定期的に学校訪問し、情報提供等を行う。 (2) 視察の受け入れ（共） 市外からの震災に関する視察等については、受け入れ先を防災学習館に設定するなど、視察内容に応じて調整を行う。 令和 7 年大船渡市大規模林野火災に関する行政視察等の問い合わせが現在も寄せられており、視察受け入れ先の一つとして、防災学習館にて林野火災の初動対応や被害状況等に関する座学を実施し、併せて東日本大震災の防災学習に係るガイド案内等を提供する。 (3) 体験プログラムの提供・開発（共） 児童・生徒向けに防災学習館で行うことができる体験型プログラム（パーティーの組立体験、簡易トイレの疑似体験等）を提供するほか、今後実施可能なプログラム（クイズ、ゲーム等）の開発を進める。 (4) 林野火災コーナーの設置（共） 令和 7 年大船渡市大規模林野火災に関するパネル展示（火災発生の要因、活動写真など）を行う。 (5) 博物館の取組（博） ・施設の一部改修を行い、防災をテーマとする常設展示エリアを新設する。 ・当市における過去の地震及び津波の記録について、5 月 30 日から 6 月 21 日まで特別陳列を実施するとともに、6 月 14 日に講演会を開催する。	防災学習ネットワーク関連施設等の利用者数（単位：人） <table><tr><td></td><td>博物館</td><td>魚市場</td><td>防災学習館</td><td>防災センター</td></tr><tr><td>R6</td><td>6, 520</td><td>22, 607</td><td>273</td><td>1, 547</td></tr><tr><td>R7</td><td>6, 924(404 ↑)</td><td>16, 066(6, 541 ↓)</td><td>501(228 ↑)</td><td>1, 860(313 ↑)</td></tr></table> (1) 市内小中学校（東朋中、大船渡中、大船渡一中、赤崎小）を訪問し、資料（別紙 2）をもとに防災学習館の活用について提案を行った。 今後は未訪問の小学校を含め、定期的に学校訪問し防災学習館の紹介を行っていく。 小中学校等での利用状況は、以下のとおり。 ・4 月 30 日 教職員新任研修 6 人 ・9 月 30 日 東朋中 1 年生 34 人 ・10 月 6 日 滝沢第二中 17 人 (2) 同館において、林野火災に関する視察対応（林野火災の概要説明＋学習館の見学）を行った。（実績は別紙 3 参照） (3) 1 階大広間に、パーティーション、簡易トイレを設置し、体験型プログラムとしてパーティーションの組立、凝固剤による簡易トイレの疑似体験を実施可能にした。 (4) 柴山准教授協力のもと林野火災展示資料の作成を進めた。 (5) 博物館の取組 ①常設展示の一部改修（津波浸水区域図の更新） 従来は、三陸町との合併前の旧大船渡市域を対象に、明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波、昭和チリ地震津波の浸水区域図を展示していたが、新たに東日本大震災津波の浸水区域を追加するとともに、対象範囲を合併後の市全域へ拡大するなど更新を行った。		博物館	魚市場	防災学習館	防災センター	R6	6, 520	22, 607	273	1, 547	R7	6, 924(404 ↑)	16, 066(6, 541 ↓)	501(228 ↑)	1, 860(313 ↑)	・市内児童・生徒 ・視察団体等 ・来訪者	・随時	・市(危機防災対策課、林野火災対策局) ・市教育委員会 ・赤崎地区まちづくり委員会 ・博物館	—
	博物館	魚市場	防災学習館	防災センター																		
R6	6, 520	22, 607	273	1, 547																		
R7	6, 924(404 ↑)	16, 066(6, 541 ↓)	501(228 ↑)	1, 860(313 ↑)																		

事業	取組項目	R 8 取組概要	R 7 取組実績	対 象	実施時期	実施主体	予算規模
防災学習ネットワーク関連施設等の利用促進	〃	・ <u>博物館で実施するイベント情報等について、博物館公式Xでの配信とあわせ、市公式Xでも配信を行い、周知を図る。</u>	②展示解説会の開催 更新した津波浸水区域図等を活用し、展示解説会を開催した（参加者数：21人）。 ③教育旅行の受入 1校（341人）の教育旅行を博物館にて受入対応した。	〃	〃	〃	〃
	各団体との連携	(1) 周遊プランの造成（共） 防災×観光の一体的取組として、市内関係者等と連携・協力し、学校や旅行会社へ提案できる周遊商品の造成を進める。 <u>調整を進めている(2)のほか、潮風トレイル（赤崎・碁石エリア）と防災学習館、市立博物館を組み合わせた周遊プランや、大船渡津波伝承会の資料を活用した企画展などおおふなぼーとを起点とした周遊プラン等について検討を進める。</u> (2) キャッセン大船渡との連携（「あの日」を活用した取組）（共） キャッセン大船渡と連携し、市外教育旅行向けや市内児童生徒向けに、防災学習館と防災学習プログラム「防災×観光アドベンチャーあの日」の活用 <u>プランについて、DMの送付や小中学校への訪問提案を行う。</u>	(1) 周遊プランの造成 「防災学習館」と「防災×観光アドベンチャーあの日」を相互に利用促進する連携方法を考案するため、キャッセン大船渡と打合せを行った。連携案は以下のとおり。 ・「あの日」無料体験デーに併せた、防災学習館の利用提案 ・防災学習館の利用による、「あの日」プログラム料金の割引等 (2) キャッセン大船渡との連携 ・周遊プラン、連携手法を確立したうえで、DMの送付や小中学校への訪問提案を行っていくこととした。	・市民(児童・生徒含む) ・来訪者	・随時	・市(危機防災対策課、観光交流課) ・市教育委員会 ・市観光物産協会 ・キャッセン大船渡 ・椿の里・大船渡ガイドの会等 ・赤崎地区まちづくり委員会	—
	防災イベントの実施	(1) 3月11日の諸行事 ① 東日本大震災犠牲者追悼献花（市） みなと公園展望広場（祈りのモニュメント前）において、市長等による代表献花、一般献花を実施するとともに、3月11日前後の一定期間、犠牲者芳名板を設置する。 ② 慰霊の集い（赤） 防災学習館において、慰霊碑への献花や灯籠の設置、館内での写真展示などを実施する。 (2) 防災イベントの実施 ① <u>おおふなと防災フェア（消）</u> 大船渡消防署において、消防・救急活動や防災に関する体験ブースを設置する「おおふなと防災フェア」を9月6日に実施予定。 ② <u>おおふなぼーとで防災ウィーク（観）</u> 市観光物産協会主催の「おおふなぼーとで防災ウィーク」を令和9年3月に実施予定。 (3) <u>市防災訓練の実施（市）</u> 10月4日に、地震・津波を想定した市防災訓練を実施する。メイン会場を設けた市民参加型の訓練を予定している。詳細は関係機関等と今後調整する。 (4) <u>令和7年大船渡市大規模林野火災に係る講演会の実施（市）</u> 7月15日・16日に、リアスホールにて災害対応及び森林再生に関する課題や教訓等に係る講演会を実施するとともに、火災当時の状況を振り返る写真展示及び被災木の活用事例の紹介を行う。	(1) 3月11日の諸行事 ① 東日本大震災犠牲者追悼献花（市主催） みなと公園展望広場（祈りのモニュメント前）において、市長等による代表献花、一般献花を実施するとともに、3月5日から24日までの間、犠牲者芳名板を設置した。 ② 慰霊の集い（赤崎地区まちづくり委員会等主催） 防災学習館において、慰霊碑への献花や灯籠の設置、館内での写真展示などを実施。参加者80人。 ※ 神戸大学ボランティア協力 (2) おおふなぼーとで防災ウィークを2月28日～3月11日で実施した（市観光物産協会主催）。 (3) 市や関係団体主催のイベント等の機会に、令和7年大船渡市大規模林野火災に関するパネル展示や復旧・復興PRに係る取組を実施した（実績は別紙4参照）。 (4) 林野火災の調査研究報告会を実施（研究グループ、市主催） 1月24日に突発科研費大船渡市山林火災総合調査研究グループによる、研究成果を発表する現地報告会を三陸公民館で開催。報告会開始前に市のPR動画を現地およびオンラインにて放映し紹介した。 現地参加者：158人 オンライン参加者：89人	・市民(児童・生徒含む) ・来訪者 ・イベント来場者 ・関係者・関係企業	・7月講演会 ・9月防災フェア ・10月防災訓練 ・3月追悼献花 慰霊の集い 防災ウィーク	・市(危機防災対策課、観光交流課、企画調整課、林野火災対策局) ・市観光物産協会 ・赤崎地区まちづくり委員会 ・消防署	—
	東北復興ツーリズム推進ネットワーク等への参画	(1) 東北復興ツーリズム推進ネットワークへの参画（共） 令和5年7月25日、東北における復興ツーリズムの推進を目的に「東北復興ツーリズム推進ネットワーク」が設立された。 JR東日本、旅行会社、自治体が三位一体となって、それぞれが持つ知見・ノウハウを最大限活かし、東北への教育旅行の誘致に取り組むもの。参画団体は、行政50団体、旅行会社等92団体。 当市は、観光交流課と危機防災対策課が担当窓口として参画している。 オンライン会議等に参加し、旅行会社や各自治体から教育旅行やツアーの傾向、取組事例、課題など情報収集するほか、 <u>ファムツアーへ提案できる周遊プラン及びアプローチを検討する。</u> (2) 3.11メモリアルネットワークへの参画（市） 定期的開催されるアドバイザー会議に参加し、各自治体や団体等における震災伝承の取組や課題等の共有、意見交換を行い、参考事例の収集等を行う。	(1) 東北復興ツーリズム推進ネットワークへの参画 第6回会議（10月9日）にオンライン参加し、各団体の取組や課題について情報共有を行った。 【伝承ロードが実施したアンケート結果（対象1万人（首都圏、東北））】 ・伝承施設への訪問動機は「施設の近くにきたので、ついでに訪問した」が最も多い。 ・伝承施設への不満は「アクセスが良くない」「訪問する事前の情報が少ない」「周辺に他の観光施設がない（遠い）」が多い。 (2) 3.11メモリアルネットワークへの参画 第5回会議（1月21日）にオンライン参加し、震災伝承に関する意見交換を行った。 ・各施設、団体において来訪者数は減少傾向にある（修学旅行や一般の団体利用の減少等が要因）。	・伝承施設・団体 ・来訪者	・随時	・市(観光交流課、危機防災対策課) ・市観光物産協会	—

事業	取組項目	R 8 取組概要	R 7 取組実績	対象	実施時期	実施主体	予算規模
震災の記憶や教訓等の記録・保存	大船渡市防災学習アーカイブスの充実	(1) 大船渡市防災学習アーカイブスの充実（共） - 市内の震災伝承施設や震災遺構、復旧・復興に関する取組等のコンテンツを登録した防災学習アーカイブスサイトを運営する。 ※ 大船渡市防災学習館とおおふなぼーとに設置するデジタルサイネージのほか、市ホームページから閲覧が可能。 - 市内小中学校が取り組む防災・復興教育や、浸水水位を表示している建物や津波到達点の碑など、新たなコンテンツを追加するとともに、SNSや市広報紙でアーカイブスサイトの周知を図る。 <u>引続き震災の教訓等を記録・保存し継承していくに当たり、費用対効果の観点から、委託先など運用方法について検討する。</u>	林野火災に関するコンテンツ6件を追加し、登録件数は全97件となった。 コンテンツ追加後、SNS（X）に投稿し、防災学習アーカイブスの周知を図った。	- 市民（児童・生徒含む） - 来訪者 - サイト閲覧者	・随時	- 市（危機防災対策課） - 市観光物産協会 - 博物館	サイト運用管理 894千円
	3.11 伝承ロードへの登録（東北地方整備局の取組）	震災伝承施設として、大船渡市防災学習館、市立博物館、大船渡市魚市場など、現登録件数は26件。（別紙3参照） (1) <u>「防災×観光アドベンチャーあの日」の第3分類への登録申請（市）</u> 震災伝承施設として、キャッセン大船渡の「防災×観光アドベンチャーあの日」の登録申請を行う。 (2) <u>防災学習館のピクトグラム案内標識の設置（共）</u> 防災学習館の第3分類登録に当たり、ピクトグラム案内標識を設置（国道3か所・県道2か所・市道2か所）予定。	- 震災伝承施設として、キャッセン大船渡の「防災×観光アドベンチャーあの日」の登録申請に向け、キャッセン大船渡、土地利用課と申請内容について確認等を行った。 ※ 登録は「施設」である必要があることから、キャッセン大船渡エリア全体を伝承施設とみため、その中で防災学習プログラム「あの日」を提供しているという方針での申請となる。 - 伝承ロードへの登録を契機に、(株)キャッセン大船渡を防災学習ネットワーク運営協議会に構成員としての参画を予定している。（打合せ時にキャッセン大船渡へ提案済み） - 防災学習館の第3分類登録に当たり、ピクトグラム案内標識の設置（国・県・市道）を令和8年度に予定している。（震災伝承ネットワーク協議会における整備計画による）	- 市民 - 伝承ロード利用者	・令和8年5月申請	- 市（危機防災対策課、建設課） - 県 - 国	—
	津波伝承や防災・減災を学ぶ活動への支援	(1) 防災出前講座の実施（市） 市内小・中学校、高校等からの依頼により防災学習（出前講座）を実施する。 (2) <u>防災士養成講座（市）</u> 自主防災組織を中心に、地域防災を支える人材を育成するため、防災士の養成講座を実施する。（定員50人） (3) <u>自主防災組織等の意識啓発（市）</u> <u>災害時「共助」の要となる自主防災組織の災害対応力を一層高めるため、研修等を企画し意識啓発を図る。</u> (4) <u>外国人等地理不案内者の防災啓発（市）</u> 外国人等地理不案内者に向けて、災害時に身を守るために必要な事項をまとめたチラシ等を作成し、転入時等に配布するなど防災啓発を行う。	(1) 市内小学校、団体からの依頼により防災出前講座を実施した。 10月21日 赤崎小学校 4年生（16人）を対象に座学、実技（防災倉庫見学、パーテーション・プライベートテント設置、簡易トイレ体験（水を凝固剤で固める体験））を実施した。 12月7日 外国人対象防災講座（市国際交流協会主催） 外国人技能実習生等（参加者13人）向けに座学、実技（津波避難誘導標識による避難経路の確認）を実施した。 (2) 令和7年度は大船渡市津波伝承会の企画展示を15回実施した。	- 市民 - 市内学校・団体	・随時	市（危機防災対策課）	—
その他	ゲートウェイの役割、ネットワークの企画・運営	【ネットワークの企画・運営】 (1) 総合案内（観） おおふなぼーとでは、ゲートウェイとして、エントランス内の防災学習コーナーの設置、来訪者へのパンフレット配布や施設紹介など、総合案内を行う。 (2) コーディネート業務 ① 旅行会社等の商談、教育旅行の受け入れ等（観） 市観光物産協会では、教育旅行誘致に向けた旅行会社との商談、視察を含めた教育旅行の受入に対応する。 ② <u>防災学習ネットワーク展示会の実施（市・観）</u> 大船渡津波伝承会の資料を引継ぎ、展示を行うとともに、令和7年大船渡市大規模林野火災に係るパネル展示を行う。 ③ <u>おおふなぼーとを起点とした周遊の促進（共）</u> 防災学習ネットワーク展示会や防災ウィークなどイベントを通じて誘客を図るとともに、イベント開催を軸とするキャッセンエリアの周遊などについて検討を進める。	【総合案内】 エントランス内に防災学習コーナーを設置し、防災学習アーカイブスや祈りのモニュメント等の震災伝承施設の紹介を行った。 【コーディネート業務】 ① 旅行会社等の商談、教育旅行の受け入れ等 大船渡市観光物産協会において、教育旅行誘致に向けた商談（東京、大阪、函館、札幌）、視察を含めた教育旅行の受け入れ（岩手県、東京都、神奈川県、大阪府の小・中学、高校等：計579人）に対応した。 【ネットワークの企画・運営】 ① 事務局を中心に、市内小中学校への防災学習館の活用提案のほか各団体との連絡調整や打合せを実施した。	- 市民 - 来訪者 - 旅行団体等	- 通年 - 総合案内、商談等 - 随時 - 関係団体等との意見交換	- 市（危機防災対策課、観光交流課） - 市観光物産協会 - キャッセン大船渡 - 椿の里・大船渡ガイドの会等 - 赤崎地区まちづくり委員会 - 博物館	—

事 業	取組項目	R 8 取組概要	R 7 取組実績	対 象	実施時期	実施主体	予算規模
その他	防災学習館の運営	(1) 防災学習館の運営（赤） 漁村センター指定管理者である赤崎地区まちづくり委員会に以下の業務を委託し、防災学習館の管理・運営を行う。（利用者目標：500 人） ① 管理運営業務 防災学習館の予約受付、清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充などを行う。 ② 館内ガイド業務 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝え、防災・減災に関する知識の普及と意識の啓発を図るため、来館者の案内、展示物等の説明を行う。	(1) 赤崎地区まちづくり委員会に以下の業務を委託し、防災学習館の管理・運営を行った。 ・管理運営業務 防災学習館の予約受付、館内・施設周辺の清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充を行った。 ・館内ガイド業務 令和 7 年度ガイド実績：18 回 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝え、防災・減災に関する知識の普及と意識の啓発を図るため、来館者の案内、展示物等の説明を行った。 (2) 防災学習館の利活用を促進するため、施設環境の充実を図った。 ・2 階展示室（2 部屋）にエアコンを設置した。 ・1 階大広間にスポットクーラーを 2 台設置した。	漁村センター指定管理者	・通年	・市(危機防災対策課) ・赤崎地区まちづくり委員会	・管理運営 384 千円 ・館内ガイド 72 千円
	協議会の開催	・協議会の開催（市） 事業計画案、事業実績等について協議する。 第 1 回会議を 6 月下旬、第 2 回会議を 2 月に開催予定。	(1) 令和 7 年 8 月 19 日 第 1 回会議 令和 6 年度事業実績、令和 7 年度事業計画案について協議した。 (2) 令和 8 年 3 月 26 日 第 2 回会議 令和 7 年度事業実績について協議した。	協議会委員	・令和 8 年 6 月 ・令和 9 年 2 月	・市(危機防災対策課)	・謝金・旅費 65 千円